

なぜ 名瀬まち商店街 (奄美市通り会連合会)

鹿児島県奄美市

小中高生の思い出づくりに貢献し Uターン促進



取組の背景

高齢化、若者流出で 人口が減少

郊外大型店の相次ぐ進出やインターネット販売の台頭等により、同連合会を含む奄美市の中心市街地においても地域住民の商店街離れが進み、販売額は年々減少傾向にある。店舗数は2004年から2014年までの10年間で約30%減少した。また人口減少も進んでおり、奄美市の人口増減をみると、自然減(死亡>出生)は2001年頃からであるが、社会減(流出>流入)については1985年頃から一貫して続いている。社会減の要因は島外大学への進学の影響が大きい。奄美大島に大学がないため、大学進学を志望する学生は必然的に島外へ流出する。2017年度の奄美市の大学進学率は43.6%であり、高校卒業後、約半数の高校生が流出したと考えられる。

働く場の提供は商店街だけでは解決できない問題ではあるが、島外大学に進学した若者に、就職でいずれは奄美大島に帰ってきたいと考えてもらうために学生時代の商店街での楽しい思い出づくりが重要と考えている。

取組の内容

商店街で小中高生に思い出 づくりの場を提供

同連合会では、小中高生等に対し、島外へ進学してもいずれは島に帰りたと思うように、商店街での楽しい思い出づくり、各種イベント開催に取り組んでいる。主なイベントは8月の夏祭り、11月の秋祭りで、連合会の各通りを歩行者天国にし、バブルサッカーやチョークで落書き等、子供たちが参加して遊べる催しを行う。また、商店街の中央にメインステージを設け、小学生による吹奏楽の演奏や合唱、空手の演舞、大島高校応援団による演舞、大島北高校生によるダンス、奄美高校家政科によるファッションショー等の若者によるステージイベントを開催する。イベント当日は多くの来街者で商店街ににぎわいを創出している。このイベントは

高校生たちにとって伝統の行事であり、家族等、沢山の来街者に向けて発表するため、高校生たちが長い期間をかけて作品を製作する等、楽しい青春の思い出づくりになっている。

また、離島という特性から、行政や支援団体等との距離感が近い。イベント等を行う際にも、企画から実施に至るまで奄美市や奄美大島商工会議所の職員等が深く関わり、官民一体で商店街を活性化しようという思いがイベントに強く現れている。2017年には同連合会地区を主とする「奄美市中心市街地活性化基本計画」が認定され、同連合会を含む中心市街地の活性化に改めて注目が集まっている。

観光面においては、2017年に奄美群島が「奄美群島国立公園」に指定され、新たに格安航空会社(LCC)が就航し、2018年には年間20隻のクルーズ船が寄港する等、観光面において好機に恵まれている。奄美大島に流入する観光客を取込むため、まちづくり会社と連携して「なぜまちマップ」を作成する等、観光対策にも力を入れている。



秋祭りの様子

取組の成果

若者による活性化事業で来街者 7%増、人口減少幅増加に歯止め

これらの取組の結果、中心市街地において2017年度に営業店舗数が9店舗増加している。また、高校生が商店街活動に関わることを通じて店舗との交流が深まり、商店街ですれ違う際には挨拶をする間柄になっている。こうした動きから若手の経営者による商店街活

性化の機運が醸成されてきた。最近では、イベントによる来街者増だけでなく、各個店の売上に結び付けようと、商店街の各個店を巡るウォークラリーを開催したほか、今年度初めて商店街活性化事業である「第1回奄美大島まちゼミ」も開催している。

来街者に関しては、2018年8月の奄美市歩行者通行量調査において、同連合会を含む中心市街地の歩行者通行量は2017年8月と比較して約7%増加した。更に、地域経済分析システム（RESAS）における奄美市の人口増減をみると2016年の社会減は250人で、2011年の333人からの5年間で減少幅が小さくなっており、同連合会の取組みが一翼を担う。

実施体制

同連合会の役員は商店街の20代～40代の若手経営者等を中心に構成されている。離島という特性上、奄

美市、商工会議所、まちづくり会社や社交飲食業生活衛生同業組合といった他組織との関りが深く、島の特性を活かした様々なイベント等を実施することで中心市街地の活性化に取り組んでいる。

自主財源の確保については、各商店街からの会費収入に加え、共通駐車券の発行で得られた手数料収入をイベント開催の原資としており、自らの資金でイベント開催をしている。



大島高校応援団演舞の様子

キーパーソンからのコメント

学生が参加できるイベントで島全体を活性化

奄美大島は少子高齢化が進んでおり、その要因の1つとして、奄美大島には大学がなく、高校卒業後の進路として島外を選択する学生が多いことが挙げられます。このような中、奄美市通り会連合会の各種イベントでは、学生が活躍できる催しを積極的に採用しています。子供たちは学校の授業や部活動で学んだことや特技を活かして、それぞれの個性を活かした多様なステージ発表を行います。

す。子供から大人までみんなで楽しんでいる姿がとても印象的です。

このようなイベントを通して、学生の皆さんには、高校卒業後、島外に進学や就職をしても「いずれは奄美大島に帰ろう」と思ってもらえるよう取り組んでいます。将来、商店街のイベントで活躍した学生たちが、奄美大島に戻り、島外で学んだことを活かし奄美大島全体の活性化に取り組んでもらえたらうれしいです。



奄美市通り会連合会
会長
恵 枝美

商店街の概要

同連合会は、鹿児島県の離島自治体で最大規模である奄美市の中心市街地にある7つの商店街（名瀬中央通りアーケード商店街振興組合、奄美本通り名店街、末広本通り会、銀座通り会、支庁通り会、サンサン通り会、奄美市本町通り会）で構成される。各通り会の結成は戦後間もない1949年頃で、アメリカ統治下において乏しい生活必需品を島民に供給し、日本復帰後も奄美群島の復興を支えてきた。

中心市街地（約43ヘクタール）に、奄美市の小売店舗のうち約25%があるほか、市役所等の公共施設がコンパクトに集積しており、連合会では夏祭り・秋祭り等のイベントのほか、駐車場事業、商品券事業等を行う。

- 所在地 鹿児島県奄美市入舟町
- 人口 約4万人（奄美市）
- 電話／ 0997-52-6111
- FAX／ 0997-54-0934

- URL <https://www.facebook.com/nazemachi/>
- 会員数 7通り会
- 店舗数 189店舗（小売店 97店、飲食業 28店、サービス業 40店、金融業 3店、不動産業 8店、医療サービス業 3店、その他 10店）

- 商店街の類型 エリア価値向上型
- 主な客層 高齢者、主婦／40歳代、60歳代